

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人
第5学年	国語	54人	算数	54人	理科	54人

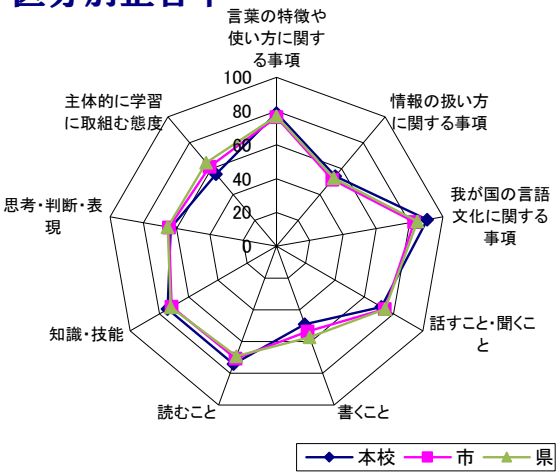
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.9	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	54.1	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	90.6	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	71.7	74.1	74.2
	書くこと	49.1	53.7	57.2
	読むこと	74.2	70.7	69.2
観点	知識・技能	74.4	71.6	72.3
	思考・判断・表現	63.6	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.8	61.6	64.7



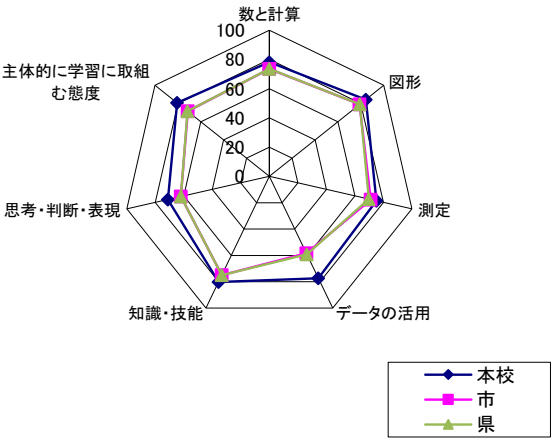
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読み・書きについては、市の正答率をやや上回っているものが見られた。これまでの学習を通して定着が図れたと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きは、毎日のリズムとして取り組ませてきたこれまでの学習習慣を続けていく。 ・言葉の特徴や使い方については、授業の振り返りの場面で意図的に整理する場面を作ったり、例文づくりに取り組む場を多く設定したりすることで、身に付けられるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○全体の正答率は、市の平均と比較して上回っている。国語辞典の使い方について理解している児童は、7割程度だった。 ●情報と情報との関係について理解し、要約する問題では正答率が47. 2%、考えとそれを支える理由との関係を明確にしなが記述する問題では正答率が45. 3%と低かった。	・文章や段落の似ているところや違うところに線を引くなどして意識して読むようにする。 ・話されている順序をノートに整理して書く時間を設ける。 ・メモの取り方を繰り返し練習し、少しずつ工夫を身に付けていけるようにする。 ・単元の始めに、意味の分からない言葉を確認する時間を設け、辞書に触れる時間を作る。
我が国の言語文化に関する事項	○漢字のへんやつくりについての問題では、正答率が90. 6%だった。ほとんどの児童が理解できていた。	・普段の生活から、既習の漢字を使うように指導し、確実な定着を図っていく。また、前学年の漢字の復習にも力を入れて指導していく。 ・新出漢字の学習では、漢字の成り立ちや構成にも触れ、児童の関心を高め、学習に取り組めるようにする。
話すこと・聞くこと	○話の中心を明確にするための工夫を問う問題では、正答率が84. 9%と高い。 ●全体の正答率は、71. 7%と県や市の平均をやや下回っている。特に、相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら答える問題では、正答率が58. 5%と低い。記述式への苦手意識もあると考えられる。	・国語の授業や他教科、学級活動などにおいて、児童が既習事項を活用できるよう、教師側が意識的に指導することで、自分の考えを伝える力を高める。 ・理由や根拠を挙げて自分の意見を述べる習慣を付ける。 ・メモをとることに苦手意識を持つ児童も多いので、国語の授業以外でも、聞いて書き取りをする、メモをとるなどの練習をする機会を増やす。
書くこと	○意見文を書く際に、自分の考えを明確にし、選択することができる児童が多い。 ●全体の正答率は49. 1%で、市の平均より4. 6ポイント低かった。 ●指定された条件の中で文章を構成して書く問題では、正答率が低かった。普段のテストよりも問題数が多く、終わらなかった児童も多い。	・朝の学習や授業の時間を使い、意見文の型を踏まえて短時間で書く練習をするなどして、書く力の定着を図る。 ・どのような力を身に付けさせるか、学習の目標を明確化し、「書くこと」で学習したことを、各教科の中で横断的に使えるようにしていく。 ・学力状況調査に似た二者択一を考える機会を作ったり、問いに対して文章で答える答え方の練習を行ったりする。
読むこと	○全体の正答率は、74. 2%で、市の平均を4ポイント近く上回っている。 ○物語や説明文を読み取る力・登場人物の心情理解について県平均を大きく上回っている。叙述をもとに場面の様子をとらえる問題では、物語文・説明文共に、県平均を上回っている。 ●説明的文章の読み取りでは、要約する問題で正答率が低かった。	・物語文と説明文の、要旨の捉え方、文章構成の違いについて再度指導していく。書かれていることを正確に読み取るために、指示語や段落どうしのつながりを捉えながら、読解する力を高めていく。国語では単元で完結するのではなく、年間を通して活用し、また他教科においても既習事項の活用、文章の構造を意識させながら、読む力の向上を目指していきたい。 ・これまでどおり読書を奨励し、いろいろなジャンルの本に親しむ場を設ける。

宇都宮市立昭和小学校 第4 学年【算数】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	78.2	73.5	73.6
	図形	84.3	79.0	79.1
	測定	75.1	71.1	69.8
	データの活用	77.4	58.4	59.2
観点	知識・技能	80.2	75.0	75.0
	思考・判断・表現	71.2	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	80.6	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

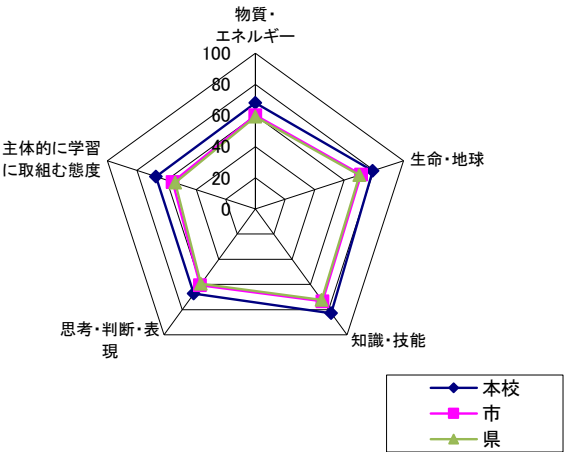
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、78. 2%で、市の平均を上回っている。 ○四則計算はほとんど市の平均を上回っている。特に、2ケタ×2ケタのかけ算の計算は、県の平均より30ポイント以上、上回っている。 ○□を使った文章問題の正答率も県の平均を約9ポイント上回っており、学習内容が身に付いていると言える。 ●分数の数直線上の表し方の問題では、正答率が56. 6%と県の平均を13. 7ポイント下回っている。	・さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正解を意識した取り組みや間違った問題の分析を自分で行わせる。 ・計算力に個人差が見られるので、四則計算など算数の基礎基本となる力は、習熟度別学習などの学習形態を工夫していく。また、発展問題を取り入れ、意欲的に取り組める内容を設定することで、定着を図る。 ・普段の授業において、数直線を用いた問題を多く取り入れ、定着を図る。
図形	○平均正答率は84. 3%と、市の平均を上回っている。 ○正三角形の作図では、92. 5%で県の平均を約5ポイント上回っている。 ●球の半径から、球が1つ入った辺の長さを求める問題では、77. 4%と県の平均を上回っているが、この領域の中では、結果が低い。	・円や三角形については、半径や直径など、基礎的な用語や意味をおさえ、プリントやドリルを活用して復習する機会を積極的に設ける。また、日常の生活場面において、確認したり、活用したりする場を意図的に設け、数学的な思考力を育むようにする。 ・活用問題についてはその解答の方法に慣れるように、単元の終わりなどに計画的に組み入れていく必要がある。
測定	○平均正答率は75. 1%で市の平均を上回っている。 ○はかりの目盛りを読み取って、果物の重さを求める問題では、正答率が86. 9%と県の平均を15. 8ポイント上回っている。 ●道のりを求める問題は、86. 8%であったが、県の平均を1. 3ポイント下回った。	・日常生活の中で、時刻と時間の概念を十分身に付けられるように、意図的に声かけをするとともに、今後も時間の単位換算の問題を繰り返し行うなどして、習熟を図る。 ・重さや長さの問題でも、日常生活の中で今後も体感したり、予測したりする経験を増やす。 ・距離と道のりの違いを図を用いて指導し、定着を図る。
データの活用	○平均正答率は、77. 4%で市の平均を上回っている。 ○複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取る問題の正答率は、75. 5%で県の平均正答率を19ポイント上回っている。 ○1めもりの大きさに着目して、間違いを指摘する問題の正答率は、81. 1%と県の平均を約18ポイント上回っている。	・グラフの目盛りの読み方は身に付いていると言えるので、今後も目盛りを読む経験を増やし、1目盛りがいくつになるのか考えられるようにする。 ・グラフの読み取りなどについては、さらなる定着を図るために、算数の時間だけでなく、社会や総合的な学習の時間等、他教科とも連携し、いろいろなグラフから考えられることを読み取る習慣をつけ、それらを意見交換する機会を設けていく。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.1	60.2	59.2
	生命・地球	79.2	71.3	70.3
観点	知識・技能	82.9	73.4	72.3
	思考・判断・表現	67.3	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	67.2	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は74.0%で、県の正答率を8.9ポイント、市の正答率を7.9ポイント上回っている。 ●「電気の通り道」での発展的な問題については、県の平均正答率は超えているものの、39%の正答率となり、身近な事象と学習内容が結びついていないことが伺える。	・問題解決の過程で、問題をつかみ予想と計画を立てる時間を確保し、様々な幅広い見方、考え方を引き出せるようにする。 ・普段の学習のまとめを自分の言葉で書くようにする。また、そのための時間を確保する。 ・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。 ・理科で学習したことと身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。また、実験で得られた結果を、自分の言葉で考察したりまとめたりする活動を、意図的に取り入れていくようにする。
生命・地球	○平均正答率は79.2%で、県の正答率を8.9ポイント、市の正答率を7.9ポイント上回っている。 ●太陽の動き方から、午後3時の影の位置を推測するなど、観察の結果を身近な生活と関連付けるような問題の正答率がやや低くなっている。	・日常生活の事象と既習事項を関連させる学習活動を十分に行う。 ・観察結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、教科書の単元末のまとめを確認したり、問題に答えたりすることを通して、基礎的な知識の定着を図る。 ・理科で学習したことと身近な事象を関連付けたり、話題にしたりし、日常の中でそれらの知識を生かしていけるようにはたらきかける。また、実験で得られた結果を、自分の言葉で考察したりまとめたりする活動を、意図的に取り入れていくようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○どの項目においても、肯定的回答が高く、多くの設問で県や市の平均を上回っている。

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答が92.5%と高く、県の平均より10ポイント上回っている。「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感じたことがある」の肯定的回答は32.5%と県や市の平均より12ポイント以上、上回っている。また、「一か月に何冊くらい本を読みますか」の質問に対して「11冊以上」と答えた児童が県や市の平均より10%前後上回っている。今後も疑問に思ったことを解決するための一つの手段として、読書活動の推進を今後も図っていきたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が81.1%と高く、市や県の平均より10ポイント前後上回っている。また「クラスは発言しやすい雰囲気である」の肯定回答は県や市の平均より7ポイント上回っている。さらに「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスの決まりなどを決めていると思う」の肯定的回答は90.6%と高く、県や市の平均より、11ポイント前後上回っている。今後も児童同士の話し合い活動を大切に学習活動や学級づくりを心掛けていきたい。

○家庭に関する質問に関しては「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答が100%となっており、また「毎日同じくらいの時刻に寝ている」も88.6%と高く県や市の平均を10%以上上回っている。このことから、児童が落ち着いた規則正しい家庭生活を送っていることが伺える。今後も家庭と連携して、児童のよりよい成長を目指したい。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からない時、辞書を使って調べている」の肯定的回答が79.2%と高く、県や市の平均より、13ポイント以上上回っている。また「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳を使って調べている」の肯定的回答が、67.7%で、県や市の平均から8ポイント前後上回っている。この二つのことから、適切な手段を用いて自己解決する能力の定着が見られ、今後も図書やICT機器等を適宜活用し、問題解決能力を育てていきたい。

●「学校での役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる」に対する肯定的回答が、83%で、県や市の平均を下回っている。肯定的な回答した児童の中でも、「常に責任をもって取り組んでいる」と答えた児童の割合は45.3%と低い。今後は自己有用感を高めるとともに、集団の一員としての自覚を高めるような指導をしていきたい。学習だけに限らず、学校・学級内で役割をもたせたり、粘り強く取り組む姿勢を身に付けたりできるようにしていく。

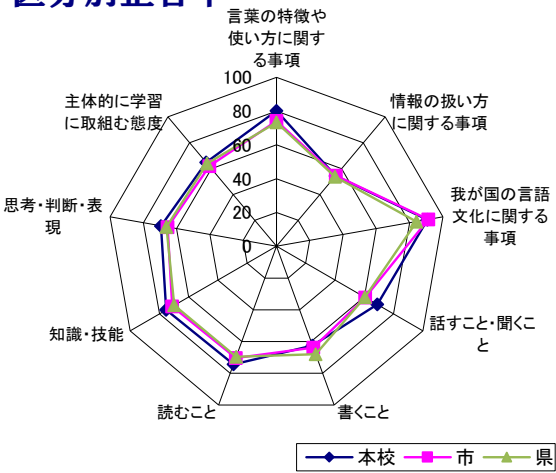
●「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答の割合が、県や市の平均をやや下回っている。今後は、教科横断的な視点を意識した、学習活動を展開していきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」と答えた児童の割合が49%と半数を下回った。また「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」の肯定的回答の割合が66%、「自分は勉強ができるほうだと思う」の割合も52.9%と低かった。今後一人一人を認め励まし、「できる」や「できるようになってきた」など、友達の役に立っているという気持ちをもたせられるような指導に努めていく。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.2	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	54.3	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	90.7	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	68.9	60.6	60.4
	書くこと	62.5	63.8	68.0
	読むこと	74.4	70.4	69.6
観点	知識・技能	75.4	71.3	69.9
	思考・判断・表現	69.4	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	64.8	61.9	64.0



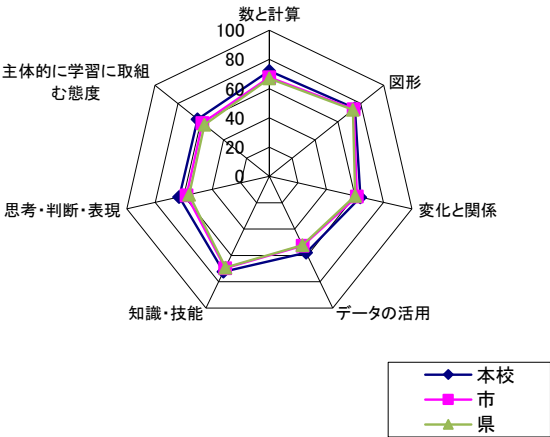
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○項目全体の正答率が市の平均と比べて、6%高い。 ○漢字の読み・書きについて、4年次の学習の定着が図れている。 ●修飾語の理解・活用については不十分な児童も多く見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きは、毎日のリズムとして取り組ませてきたこれまでの学習習慣を続けていく。 ・修飾語の理解・活用については、授業の振り返りの場面で意図的に学習内容を整理する場面を作ったり、例文づくりに取り組む機会を増やすことで、身に付けられるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○漢字辞典の使い方を問う問題では、理解している児童が多い。 ●段落相互の関係をとらえる問題では、市の平均とほぼ同じであったが、正答率としては低い。	・説明的文章の読み取りの学習の際に、考えとそれを支える理由や事例に線を引くなどして、意識して読むようにする。 ・情報と情報のつながりをノートに整理して書く時間を設ける。 ・シンキングツールなどを用い、比較や分類の仕方を身に付けていけるようにする。 ・引用の仕方や出典の示し方を指導し、作品の中で書く時間を作る。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を問う問題では正答率が高かった。	・普段の生活から、既習の漢字は使うように指導したり、前学年までの漢字の復習にも取り組んだりすることで、確実な定着を図っていく。 ・国語辞典や漢字辞典、ことわざ辞典などを活用し、言葉の意味を十分に理解させ、日記や短文作りなどで実際に使うことで語彙力を増やしていけるように指導していく。
話すこと・聞くこと	○全体の正答率が、市の平均と比べ8.3ポイント上回っている。特に、意見の相違点に着目して、考えをまとめる問題では、正答率が85.2%と高い。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げて話す問題では、正答率が48.1%と低かった。	・説明的文章の構成を捉え、必要な情報を見付けたりできるようにすることで、自分の意見に説得力を増すために情報を活用して伝える力を育てる。 ・国語の授業や他教科、学級活動などにおいても、自分の意見を述べる際に、根拠となる情報を挙げる習慣付けをする。
書くこと	○市の平均と比べ、正答率はやや低いですが、自分の考えと理由などを、文章に書くことができる児童が多い。 ●指定された長さや決められた構成で文章をまとめる力はまだ不十分である。	・朝の学習や授業の時間を使い、意見文の型を踏まえて短時間で書く練習をするなどして、書く力の定着を図る。 ・問いに対して文章で答える答え方の練習を行う。 ・要約する学習を行い、各教科横断的に取り入れることで文章をまとめる力を身に付けていく。
読むこと	○市の平均と比べ、正答率は4%高い。 ○登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて、具体的に想像する問題では、75.9%と正答率が高い。 ●情報と情報との関係を問う問題については正答率が低い。	・説明的文章の読み取りでは、書かれていることを正確に読み取るために、指示語や段落どうしのつながりを捉えながら、読解する力を高め、文章の構成や要旨を捉える力を高められるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.2	67.8	67.0
	図形	74.8	73.9	73.1
	変化と関係	63.9	61.4	60.2
	データの活用	57.9	52.7	52.1
観点	知識・技能	72.4	69.7	69.2
	思考・判断・表現	63.2	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	62.7	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

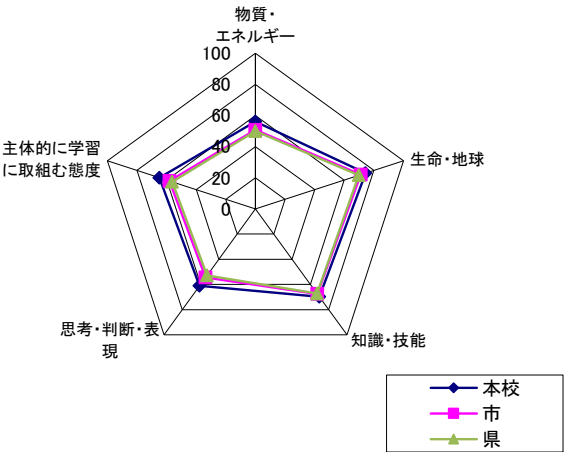
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○全体の平均正答率は72.2%で、市の平均を4.4ポイント、県の平均を5.2ポイント、上回っている。 ○「数と計算」の設問では、おおよその設問でも県と市の平均を上回っている。特に、小数第一位×整数の計算では、県の平均を11.1ポイント、小数第二位÷整数の計算では、県の平均を15.2ポイント上回った。 ●小数第一位－小数二位(差が純小数)の計算では、県の平均を7.6ポイント下回っている。	・全体としては、学習内容がよく身に付いているといえる。今後も、さらなる習熟を目指し、プリントやドリル等を活用して繰り返し復習するとともに、正確に解こうとする意識をもち、間違った問題の分析を自分で行うなどする。 ・十進法記数位取りについての知識はあるが、問題に対する答え方が分からない児童がいるので、授業では個々に考える場や時間を十分に確保することで、児童が自力で問題を読み解く力をさらに育てる。
図形	○全体の平均正答率は74.8%で、市の平均を0.9ポイント、県の平均を1.7ポイント上回っている。 ○角の大きさの180度より大きい格の大きさを求める問題では、県の平均を3.8ポイント上回っている。また、いろいろな形の「直方体のある年に平行な線を理解している」問題では、県の平均を11.8ポイント上回っている。 ●角の大きさでは、「分度器の中に示された格の大きさの目盛りの読み方を理解している。」では、県の平均を4.9ポイント下回った。また、「ひし形の作図ができる」では、13.8ポイント下回り、理解が十分でない。	・面積の単位(m^2, cm^2, a, ha)の関係を繰り返し復習する機会を設け、身近なものの面積や広さの理解の定着を図ったり、おおよその面積を予測したりして量感を身に付けられるようにする。 ・プリントやドリルを活用して作図に関する問題について復習する機会を設け、よりいっそうの習熟を図る。 ・分度器の使い方については、まだ十分でない児童もいるので、繰り返し活用することで理解を深める。
変化と関係	○平均正答率は63.9%で、市の平均を2.4ポイント、県の平均を3.7ポイント上回っている。 ○簡単な場合についての割合では、基準量と比較量から求めた割合を比較する記述問題では、県の平均を9.4ポイント上回った。また、「数量の関係を、割合を使って説明することができる。」では、県の平均を9.6ポイント上回った。 ●変わり方調べでは、「伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める」問題では、県の平均を1.2ポイント下回った。	・伴って変わる2つの数量の関係について、プリント等で復習する機会を意図的に設け、より確実な理解につなげていく。
データの活用	○平均正答率は57.9%で、市の平均を5.2ポイント、県の平均を5.8ポイント上回っている。 ○「折れ線グラフと表」の「折れ線グラフを読み取ることができる。」では、県の平均を11.1ポイント上回った。 ○「折れ線グラフと表」の「二次元表を読み取ることができる。」では、県の平均を19.1ポイント上回った。 ●「折れ線グラフと表」の折れ線グラフと棒グラフが重なった表の読み取りでは、県の平均を12.6ポイント下回った。	・既習内容をしっかり身に付けられるよう、定期的に復習の時間を取り、更なる定着を図る。 ・単元の終わりにある活用問題を丁寧に取り上げることで、活用問題に対する苦手意識をもたないようにする。また、グループ学習などで図や表、グラフ、多様な表現方法の良さを知り、自分に合った表現方法を身に付けられるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.1	50.8	50.0
	生命・地球	74.4	71.1	69.8
観点	知識・技能	69.8	67.6	67.2
	思考・判断・表現	61.0	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	64.9	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○全体の平均正答率は65.6%で、県や市の平均正答率を約5ポイント上回っている。 ●実験の様子から直列回路であることを理解すること、水の三態変化の名称を答える問題の理解においては、平均を下回っている。 ●予想が正しいとした場合の結果の推測において、他の領域と比べて正答率が低い。	・教科書で扱われている用語を使いながら、自分の言葉でまとめる活動を多く設定することで、用語の定着を図る。また、その時間を確保する。 ・問題解決の過程で、問題をつかみ予想と計画を立てる時間を確保し、様々な幅広い見方、考え方を引き出せるようにする。
生命・地球	○全体の平均正答率は74.4%で、県の正答率を4.6ポイント、市の正答率を3.3ポイント上回っている。ほとんどは市の平均正答率を上回っている。 ●「腕を伸ばしているときの筋肉の様子について理解している」の正答率は、県の平均を8.1ポイント下回っている。 ●「直列つなぎを理解している」の正答率は56.6ポイントと県の正答率を8ポイント下回っている。	・観察が難しい夜間の天体の観測や、身の回りでは見つけることができない動植物、人体の内部の組織等については、デジタル教材等を活用するなどして、理解を深めるような工夫をしていく。 ・実験・観察から考えたことを表現する力や科学的現象を説明する力をつけていけるように、授業においても自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力を育成する。

宇都宮市立昭和小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○どの質問に対しても肯定的回答の割合が高く、県や市の平均を大きく上回っている。

○「学びの基礎力」では、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定的回答が83%と高く、市や県の平均を8%ほど上回っている。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」の肯定的回答は92.5%と高く、市の平均79.3%、県の平均80%を大きく上回っている。これらのことから、主体的に学習に取り組む姿勢がよく身につけていることがうかがえる。

○「対話力」では、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的回答が92.5%と高く、市の平均78.2%、県の平均77.8%を大きく上回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答が69.8%と、市の平均を19.6ポイント、県の平均を21.1ポイント上回っている。今後も、話し合い活動において、互いに認め合いながら考えを深化していけるように支援していきたい。

○「自己肯定感」では、「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答が84.9%と高く、市の平均78.8%、県の平均76.9%を大きく上回っている。また、「自分がもっている能力を十分に発揮したい。」の肯定的回答が94.4%であり、市の平均を4.8ポイント、県の平均6.8ポイント上回った。これらのことから、自分のよさに気づき、さらにそのよさを生かしていこうとする意欲がうかがえる。今後も家庭と連携し、自己肯定感を育てていきたい。

○「社会的実践力」では、「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしよう戦している。」の肯定的回答が83%であり、県や市の平均を11ポイントほど上回った。何事にも前向きに取り組もうとする姿勢が育っていることがうかがえる。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的回答が86.8%であり、市の平均を16.2%、県の平均を17.1%上回った。社会に関心を持ち、主体的に関わっていこうとする意欲があると思われる。今後も、学校生活や学校行事、地域の行事などを通して、集団や社会と積極的に関わっていけるように支援していきたい。

●「学びに向かう力」では、「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」の肯定的回答が60.4%であり、県や市の平均を6～7ポイント上回ったものの、個人差が見られた。今後も、学校生活全体を通して物事に粘り強く取り組む姿勢を大切にし、特に、学習面においては認め励ます支援を充実させることで、学びに向かう力を高めていきたい。

●「社会的実践力」の「社会参画力」では、「ニュースを見ている」の肯定的回答が79.3%であり、市や県の平均を2～3ポイント下回った。また、「新聞を読んでいる。」の設問では、「ほぼ毎日読んでいる」、「週に1～3回程度読んでいる。」を合わせた割合が9.5%であり、県や市の平均を2～3ポイント下回った。「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的回答86.8%と照らし合わせると、社会的事象に関する関心は高いものの、情報を積極的に収集しようとする姿勢には個人差があることがうかがえる。

●「問題解決力」では、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答は68%であり、市の平均59.5%、県の平均58.9%を上回ったものの、書くことに苦手意識をもっている児童が多いことが分かる。今後も、授業を通して、書く活動を積極的に取り入れ、自信をもって自分の考えを書くことができる児童を育てていきたい。

宇都宮市立昭和小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・協働する力を育てる学び合い活動の充実 ・自己肯定感の向上	ねらいを達成させるための適切な学習形態の選択を工夫したり、学び合い活動を充実させたりすることにより、協働する力を育てる。ふり返りの学習活動における自己評価や相互評価を工夫し、児童自らのよさへの自覚を深められるようにする。	「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答が4年生では81.1%、5年生では92.5%と高くなっている。今後もねらい達成のための適切な学習形態を選択した授業を行うとともに、互いの考え方のよさに気付かせるようなコーディネートの工夫をしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
条件に応じた文章の書き方	条件を提示して、それに即した文章を意図的に書く場の設定	学年、発達段階に応じて、文章の構成や言葉の選択などを意識した書く活動を取り入れていく。また、まとめやふり返りの場面で、設定されたキーワードを使って文章を書いたり、児童のふり返りを紹介したりして、書く活動を充実させていく。